

第一問（40点満点）

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 自明な前提としての世界を对象的に把握する「知る」と、自明な前提自体を疑う場所から世界
B の意味を把握しようとする「考える」の差異。
C
D

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「自明な前提としての世界」…2点

■要素B 「对象的に把握する」…2点

■要素C 「自明な前提自体を疑う」…2点

■要素D 「世界の意味を把握しようとする」…2点

■要素E…文末表現は「……差異。」という形が原則。「……差異のこと。」「……」という違い。「……」なども許容。また、「知ることとはくだが、考えることとはく。」という形も許容する。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A	日常的に慣れ親しんだ世界における、	B
	日々生起する目新しい事件を気晴らしに消費するだけで	C
E	思考の動力に結びつくことのない驚きのこと。	D

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「日常的に慣れ親しんだ世界における」…2点

■要素B 「日々生起する目新しい事件」…2点

■要素C 「気晴らしに」…1点

■要素D 「消費するだけで」…1点

■要素E 「思考の動力に結びつくことのない」2点

■要素F …文末表現は「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 自明性への驚きによって知性的な思考が始まるが、その驚きのためには知性的な思考が必要
B
C
D であり、これらは一つの循環であるから。

- 採点方法…各要素単独採点

■要素A「自明性への（驚き）」…2点

■要素B「驚きによって知性的な思考は始まる」…2点

■要素C「その驚きのためには知性的な思考が必要」…2点

■要素D「これらは一つの循環である」…2点

■要素E…文末表現は「……から。」「……ため。」「……ので。」「……という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

問五 漢字の書き取り 各1点×3

a 逸脱

b 際限

c 催眠

第二問 (一) 文科ア・理科ア 傍線部を現代語訳せよ。

- 問題 10ページ、第1段落の傍線部(文科ア・理科ア)を現代語訳する問題。
- 文末表現は、要素Bにあるとおり。
 - ・句読点の抜け、書き誤りは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1あから目もせず**B2**まもれば、

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1よそ見もせずに**B2**じっと見つめていると、

■ 採点方法 各要素単独採点。

■ 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【1点】よそ見もせずに

要素B【2点】じっと見つめていると、

第二問 (一) 文科工・理科ウ 傍線部を現代語訳せよ。

■ 問題 11ページ、第2段落(11ページ2行目)の傍線部(文科工・理科ウ)を現代語訳する問題。

- 文末表現は、要素Cにあるとおり。
- ・ 句読点の抜け、書き誤りは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1おのづからB1仕る事C1にや候ふらむ。

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1たまたまB1いたした事C1ではありませんでしょうか。

- 採点方法 各要素単独採点。
- 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【1点】 たまたま

要素B【1点】 いたした事

要素C【1点】 ではありませんでしょうか。

第二問 (一) 文科才・理工工 傍線部を現代語訳せよ。

■ 問題 11ページ、第2段落(11ページ3行目)の傍線部(文科才・理工工)を現代語訳する問題。

- ・文末表現は、要素Bにあるとおり。
- ・句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A2 いたづらなる地B1候ふ。

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A2 使われていない土地がB1にございます。

■ 採点方法 各要素単独採点

■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】使われていない土地が

要素B【1点】にございます。

第二問 文科(二)「文科のみ」

「浅黄の上下着たる翁」(傍線部イ)は何のために宰相の前に現れたのか、説明せよ。

- 問題 10ページ、第2段落の傍線部イ「浅葱の上下着たる翁」が、宰相の前に現れた理由を、次のポイントをもとめて説明する問題。

※まとめるポイント

・第2段落3、4行目の翁の発言

「年ごろ住み候ひつる所を、かく居しめ給へば、大きな嘆きと思ひ給へて、愁へ申さむがために参りて候ふなり」

- 文末表現は「ため」が望ましいが、「何のために」の説明になっていればそれ以外でもよい。
- ・句読点の有無などは不問。

- 基準 配点【5点】

- 傍線部 浅葱の上下着たる翁

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A2長年住んでいた所に**B2**宰相が来たので困惑し、**C1**そのことを宰相に訴えるため。

- 採点方法 各要素単独採点。

- 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】長年住んでいた所に

要素B【2点】宰相が来たので困惑し、

要素C【1点】そのことを宰相に訴えるため。

第二問 文科(三)・理科(二)

「汝が愁へ頗る当たらず」(傍線部 文科ウ・理科イ)と云うのはなぜか、説明せよ。

- 問題 10ページ、第2段落の傍線部(文科ウ・理科イ)「汝が愁へ頗る当たらず」と、宰相が

翁に言った理由を、次のポイントをまとめて説明する問題。

※まとめるポイント

・傍線部(文科ウ・理科イ)直後の宰相の発言

「その故は、人の家を領する事は次第に伝えて得る事なり。しかるを、汝、人の伝えて居るべき所を、人を脅かして住ましめずして、押し居て領する、極めて非道なり。」

・右の箇所の「次第に伝えて」は、注に「手順を踏んで引き継いで」と説明がある。

- 文末表現は「から・ため・ので」などが望ましいが、「なぜか」の説明になっていればそれ以外でもよい。

・句読点の有無などは不問。

- 基準 配点【5点】

- 傍線部 汝が愁へ頗る当たらず

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A3 邸を引き継ぐには手順を踏むべきであり、勝手に住みつくのは**B2** 非道であるから。

- 採点方法 各要素単独採点。

- 字数 指定なし。

〔ポイント〕

要素A【3点】 邸を引き継ぐには手順を踏むべきであり、勝手に住みつくのは

要素B【2点】 非道であるから。

第二問 文科(四)「文科のみ」

「これ、極めて賢き事なり」(傍線部カ)を、「これ」の中身がわかるように現代語訳せよ。

- 問題 11ページ、第2段落の傍線部カ(11ページ4行目)の傍線部カ「これ、極めて賢き事なり」を、「これ」の指示内容を次のポイントによって補いつつ、現代語訳する問題。

※ 「これ」の指示内容を補うポイント

- ・ 傍線部カの前(11ページ3〜4行目)の翁の発言
「大学の南の門の脇なむ、いたづらなる地候ふ。その所へまかり渡らむはいかが」
- ・ 右の箇所「大学」は、注に「大学寮。官吏養成機関」と説明がある。

- 文末表現は、模範解答にあるとおり。
- ・ 句読点の抜け、書き誤りは不問。

- 基準 配点【5点】

- 傍線部 A3これ、B2極めて賢き事なり

- 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A3 大学寮の南門の脇の空き地へ移るといふのは、B2 実に賢明なことである。

- 採点方法 各要素単独採点。

- 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【3点】 大学寮の南門の脇の空き地へ移るといふのは、

要素B【2点】 実に賢明なことである。

第二問 文科(五)・理科(三)

「いささかに怖ろしき事なくてやみにけり」(傍線部 文科キ・理科オ)とあるが、宰相がどのような人物であったためか、本文全体の内容を踏まえて、説明せよ。

■ 問題 11ページ、第3段落の傍線部(文科キ・理科オ)に「いささかに怖ろしき事なくてやみにけり」について、屋敷に化け物が出なくなった理由として、宰相がどのような人物であったか、次のポイントを踏まえて説明する問題。

※踏まえるポイント

以下は、**A3**「思慮深く賢い人」の根拠となるポイント。

- ・宰相仰せて言はく、「汝が愁へ頗る当たらず。その故は…そのことわり、確かに申せ」。(第2段落 4～7行目)
- ・心賢く智ある人のためには、鬼なれども悪しき事もえ発こさぬ事なりけり。(最終段落 1行目)

以下は、**B3**「化け物の出現に対してもまったく動じない人物」の根拠となるポイント。

- ・宰相、それを見れども騒がずして居たれば(第1段落 2行目)
- ・宰相、あから目もせずまもれば(第1段落 4～5行目)
- ・宰相、騒がずして居たる(第2段落 1行目)
- ・宰相声をあげて、「何事申す翁ぞ」と問へば(第2段落 2行目) など

■ 文末表現は「人物」や「ため」が望ましいが、「どのような人物であったためか」の説明になつていればそれ以外でもよい。

・句読点の有無などは不問。

■ 基準 配点【6点】

■ 傍線部 いささかに怖ろしき事なくてやみにけりず

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A3 思慮深く賢い人で、**B3** 化け物の出現に対してもまったく動じない人物。

■ 採点方法 各要素単独採点。 ■ 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【3点】 思慮深く賢い人で、

要素B【3点】 化け物の出現に対してもまったく動じない人物。

(一)

a 今にも b 日が暮れ a ようとする中で (2点)

a 「将に…んとするに」の訳……1点

※「今にも……ようとする中で」

※「今まさに……ようとして(いつ)」

※「まさに……ようとして」

※「……ようという時(ころ)に」

※「今にも……ようとする」と終止しているものは×

※下へ続く形が必要。

など○

b 「タならん」の訳……1点

※「日が暮れ(ようとして)」

※「夕刻にな(ろうとして)」

※「夕方にな(ろうとして)」

※「タベにな(ろうとして)」

※「暗くな(ろうとして)」

など○

b $\frac{a}{2}$ にわかに $\frac{b}{2}$ 思ひ立って (2点)

a 「卒爾として」そのもの訳……2点

※「にわかに」	}	など○
※「とつぜん」		
※「ついに」	}	など×
※「結局」		
※「軽率に」		

b 不問とするが、**a** 「にわかに」がなくても、

「思ひ立って」
「思ひ立って」
} があっても○とする。

c 年齢の a b どどまることがないのを (2点)

a 「年の」の訳……1点

※「年齢が(の)」「になっっていないものは×

※「齡(よわい)が」でもよい。

※「年が」

※「年月が」

は×

b 「留まらざるを」の訳……1点

※「どどまることがないのを」

※「どんどん過ぎてゆくのを」

※「止まらなうこと」

など
○

※「〜のを」「〜こと」のように下へ続かない形は×。「どどまることなく」「どどまらなう」など。

(二) (文科のみ)

五十になり、^a 自分の人生も終わりが近いことを思うと^b、^c心が揺れて、^d正月のよい時節に、^e

こうして隣人と斜川³に出かけてきた。(10点)

a 「開歳倏ち五十」の要素……1点

※「五十になり」

※「五十歳になって」

※「年が明けて五十になり」

※「正月になって五十になり」

など○

※ここで「正月」の件に触れていれば d は「よい時節」があれば○

b 「吾が生行(ゆくゆく)帰休せん」の要素……3点

※「之(これ)を念(おも)へば」に相当する。

※「自分の人生も終わりに近いことを思うと」

※「自分もいよいよ死期が近いことを思うと」

※「我が命もそのうち尽きることを思うと」

など○

※ c に続く形が自然であれば「思うと」はなくて可。たとえば、「自分もいよいよ死期が近いことに」↓「心が揺れて」など。

※「帰休」を「故郷に帰って休む」などにしているのは×

c 「中懷を動かし」の要素……1点

※「心が揺れて」

※「心は動揺し(させられ)

※「心をゆさぶられ(て)」

※「胸中が揺れて」

※「胸がさわいで」

など○

d 「辰に及んで」の要素……2点

※「正月五日、天氣澄和し、風物閑美」な「辰(とき)」である。

※「正月」の要素

……1点

※「辰に及んで」(「辰」は注アリ)

……1点

とする。

※ a で「正月」になったことに触れていれば、「辰に及んで」だけで2点とする。

e 「茲の遊を為す」の要素……3点

※「二、三の隣曲と同(とも)に斜川に遊ぶ」に相当する。

※「天氣澄和し、風物閑美」の要素がここに入っているもよいが、d の「よい時節」にまとめられもするので、なくても可。

※こうして隣人と斜川に出かけてきた」

※「二、三の隣人と斜川に遊びにきた」

※「頼もしい隣人と川遊びに出かけた」

※「近所の人と斜川で遊ぶことにした」

など○

※「隣曲」の要素の不足は△1点。「友人と」「知り合いと」など。

(三) 理科は(二)

a 今後、再び ² b このような楽しい機会が ³ c あるかどうかわからない ² d ということ。 (7点)

a 「今より去りて復た」の要素……2点

※「今後、再び」

※「これからまた」

※「今後、また」

※「この先、再び」

など○

※「今より去りて」の要素……1点

※「復た」の要素

……1点

とする。

※「復た」の要素は b・c のどこかにあってもよい。

b 「此のごとくなる」の内容……3点

※一行の設問なので「このような楽しい機会」としたが、可能であれば具体的に書いてあっても可。

※「このような機会(時間)の要素

……2点

※「楽しい」「幸せな」「よい」「など」の要素

……1点

とする。

※「このような楽しい機会が」

※「このようなよいことが」

※「このように幸せな時間が」

※「このように酒を交わし楽しむことが」

など○

※「このようなことが」

※「こんな時が」

など△1点

c 「未だ知らず」「当に…べきや不(いな)や」の要素…2点

「未だ知らず」(わからない)「の要素

…1点

「当に…べきや不や」あるかどうか(「の要素 ……1点

とする。

※「あるかどうかわからない

※「ないかもしれない

※「すぐせるかどうかわからない」

※「(〜)ことが(できる)のだろうか」

など○

※「まだ…ない」の「まだ」はないほうがよいが、入っていても減点しない。

d 文末の「〜ということ」の有無は不問とする。

(四) 理科は(三)

a 明日のことはどうでもいいから、³ 今日を十分に楽しもう、⁴ c ということ。^c (7点)

※ a・b の順はどちらでもよい。

a 「明日は求むる所に非ず」の要素……3点

※「明日のことはどうでもよい」

※「明日(の)こと(を)思いわずらうまい」

※「明日がどうなるかはわからない」

※「明日のことは考えまい」

※「明日のことはわからない」

など○

※「明日は求められない」

※「明日は求めるものではない」

は△-2点。

b 「且く今朝の楽しみを極めん」の要素……4点

※「今日を十分に楽しもう」

※「今の楽しさを大切にしよう」

※「今日の楽しさを極めよう」

※「今ある楽しみを極めよう」

など○

※「今朝」でも可とする。

※「今日の遊びの楽しさ」のように、斜川に遊んだこと、客人と酒をくみかわしたこ
となどの具体的なことは不要だが、入っていても減点はしない。おそらく一行で収ま
らないはずであるが。

c 文末の「〜ということ」の有無は不問とする。

第四問（20点満点）

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 自分の幸福な境遇へのお返しとして人類への直接奉仕に身を捧げることは、シュヴァイツアの

精神の幸福に 不可欠な要素だったということ。

■採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「自分の幸福な境遇へのお返しとして人類への直接奉仕に身を捧げることは」…3点
- 要素B 「シュヴァイツアの精神の幸福に」…1点
- 要素C 「不可欠な要素だった」…1点
- 要素D …文末表現は「……こと。」という形が原則。明らかに不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点5点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B+C

使命感に従わずに生きる自分から目を逸らす「自己に対するごまかし」は、人に生きがい感を与える「使命感に生きる」生き方から最も遠いものだから。

- 採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「使命感に従わずに生きる自分から目を逸らす「自己に対するごまかし」は」…2点

- 要素B 「人に生きがい感を与える「使命感に生きる」生き方」…2点

- 要素C 「「使命感に生きる」生き方から最も遠いもの」…1点

- 要素D…文末表現は「…：…から。」「…：…ため。」「…：…ので。」「という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 自分^Aの使命を達成しても、道半ばで倒れても、^Bいずれの場合も使命感に従って生き、^C生きがいを感じていたという点では同じだということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「自分の使命を達成しても」…1点

■要素B 「道半ばで倒れても」…1点

■要素C 「使命感に従って生き、生きがいを感じていたという点では同じ」…3点

■要素D 文末表現は「…：…こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素C参照

基準 配点5

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

自分の使命を見出したにもかかわらず、それを果たすべく生きなかつた人は、死に際して自分の生を肯定することができないだろうから。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「自分の使命を見出したにもかかわらず、それを果たすべく生きなかつた人は」…2点

■要素B 「死に際して自分の生を肯定することができないだろう」…3点

■要素C 文末表現は「…：…から。」「…：…ため。」「…：…ので。」「…：…ので。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。